

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年4月に、全国の6年生児童を対象に行われた全国学力・学習状況調査について、本校では次のような調査結果となりました。

教科別学習状況調査結果

国語・算数の調査結果は、全体的に神奈川県、及び全国の平均正答率と比較し、高い傾向がみられました。特に算数においては、神奈川県、及び全国の平均正答率を大きく上回りました。

(平均正答率(%))

	二谷小	神奈川県	全国
国語全体	74.0	66.0	67.2

	二谷小	神奈川県	全国
算数全体	75.0	63.0	62.5

全国の正答率と比較して

特に成果の見られた学習指導要領の内容

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 (全体的に県・全国と比較し、文章を書く力が高い傾向がみられた) ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができる。 (県・全国と比較し、情報処理の力が高い) 	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台形の意味や性質について理解している。 (県・全国と比較し、台形の性質の理解が高い) ・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。 (県・全国と比較し、計算の力が高く、足し算と掛け算が混在した式の意味の理解が高い) ・除法の筆算について図を基に各段階の商の意味を考えることができる。 (県・全国と比較し、割り算の理解がとても高い)
--	--

課題の見られた問題

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (正答率は高くないが、県・全国との比較では正答率が大きく上回る) 	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正三角形の意味や性質について理解している。 ・高さが等しい正三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。 (正答率は高くないが、県・全国との比較では、正答率が上回っている) ・百分率で表された割合について理解している。 (基準量と比較量から割合を求める問題について、正答率は高くないが、県・全国との比較では正答率が上回っている)
---	---

内容項目	本校	全国平均
○自分には、よいところがあると思いますか。	83.1%	83.5%
○学校に行くのは楽しいと思いますか。	94.9%	85.3%
○将来の夢や目標を持っていますか。	77.9%	81.5%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	86.5%	81.8%
○人が困っているときに進んで助けていますか。	89.8%	91.6%
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.6%	96.9%
○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	88.1%	76.5%
○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	76.2%	68.5%
○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	98.3%	95.9%
○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	83.1%	81.0%
○英語の勉強は好きですか。	72.9%	69.3%
○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。	64.4%	52.5%
○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	79.7%	70.7%
○5年生までの授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	84.8%	78.8%
○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	78.0%	74.8%
○道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	86.5%	83.6%
○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	84.8%	76.8%
○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。 *「あてはまる」:ほぼ毎日 「ほぼあてはまる」:週3日以上	69.5%	62.4%
○学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	100.0%	95.1%
○学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	91.6%	77.2%
○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	94.9%	91.0%

生活習慣・学習習慣の課題と展望

「自分にはよいところがある」という項目が80%を超えているという結果は、校内重点研究会で YP プログラムを活用し自己肯定感を高める活動を行っていることもきっかけとなっていると思われます。多感な時期の児童が不安や悩みを抱えているとき、教師に安心して相談できるよう、話しやすい雰囲気をつくり、信頼関係を築けるよう今後も努めていきます。

また、本校では日ごろから授業中積極的に ICT 機器を使って学習していることで、多くの児童が ICT 機器の使用が勉強の役に立っていると感じています。今後も必要な場面に応じて積極的に活用していき、学びを深めていきます。また、友達と協力する良さを感じる場面を意図的に設定し、考えを深めたり、広げたりする協働的な学びも大切にしていきます。

生活面では、自分で計画的に家庭学習をする習慣が身についている児童が多くみられます。また、普段の生活で幸福を感じる割合も高く表れていて、学校活動と保護者の方、地域の協力の成果かと思われます。生涯に渡るキャリア観としても、地域社会への関心や、将来、英語を活用していきたい意欲が高く、国際都市横浜の児童として育っていけるように、今後とも指導していきたいです。